昔の職場を夢みる会社

職制支配の復活と強化をねらう

会社は〃赤字だ〃〃倒産だ〃といつて再建案をだしてきましたが、結局は「もつと儲けをふやしたい」というのがその本音です。だからそのためには、どうしても私たちを「文句をいわずに働らかせる」ようにしたいのです。つまり職制の支配を復活し、つよめようとしています。

再建案の第一に「作業管理」をかかげ、「なんでも係員の指示に従つて迅速に働らきなさい」といつているのもそのためです。

私たちは、かつての職場や地域でさんざんいたみつけられた職制にかぎりない憎しみを感じていますだからどんなことがあつても、会社の提案をハネ返さねばなりません。

もし、この提案を、そのままのんだとするとどうなるでしょう。二三の例をあげてみると、

㋑ 昔の繰込みは、係員の一方的な感情で繰込まれていたので、イキのいいものや、係員に「チンバニワトリ」などで「ゴマ」をすつたものだけが、もらかつていました。

㋺ 作業をやるにも課程がらたれピツケルで追いまわされ、怪我をしても時間までは無理にでも働らかされました。

㋩ 坑内では一時間の休憩もむろんなかつたし、弁当も、車道や坑木の上で水をかけて流しこんでいたものでした。

㋥ 油と汗によごれて仕事をしても、歩増や賃金が、どこでどうなつたかわからない所で増減されていました。

㋭ 文句をいえば後のたたりがこわくて、体の弱いものや、正直ものは、いつも泣きねいりをしていたものです。

㋬ 職場では、働らくものより機械の方が大切にされていました。このほかにも暗い職場の体験はたくさんあります。

職制が「ニラミ」をきかせていたのは、けつして職場だけではありません。

炭鉱といえば社宅、社宅といえば世話方というくらい有名な世話方制度を通じて、職制は私たちの生活面にも根深くはいりこんでいました。

元気なものには、出勤予約と出勤督励で、病気や怪我で休んでいるものには、検身強化で、ウムをいわせず職場にかりたてられたものです。

世話方は、毎日、家庭訪問をつづけました。一方、家庭訪問できぐつた私生活の弱身を職制支配に利用していました。

このように、昔私たちが職場や地域で味わつた会社のやり方は「働らくものには文句をいわせない」政策の一語につきます。

組合は「こんな政策は、ガマンがならない」と明るい職場や、安心して住める地域にするためながいあいだ闘いをつづけてきました。

ところが会社はまた昔のような暗い職場にひきもどそうとしています。絶対にゆるせないことです。

文化資金もへらされる

文化資金では、いま毎週見ている社宅の映画や、年に何度かやつている慰安会をはじめ、少年野球大会、駅伝競走など、いろいろな文化体育行事を、おこなつています。そして、これらに使われる金額のすべてが、私たちが闘いとつたものです。

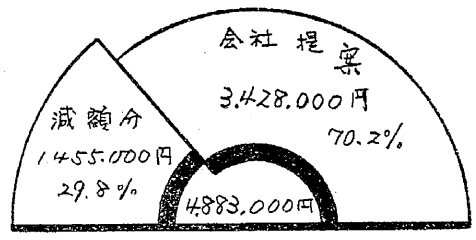
ところが、会社は、その文化資金の金額を上のグラフで見るように約三〇％も勝手にへらそうといつてきているのです。

それによつて、たとへば、昨年の機械化団交のとき、講堂のスクリーンをシネスコにするという約束をしましたが、それもできなくなります。

その他、いままでやつていたいろんな行事が、やれなくなるばかりか、運動用具などの備品も買えなくなります。

会社は半年分で一五〇万円ちかくもへらすといつています。

現行協定　四、八八三、〇〇〇円
会社提案　三、四二八、〇〇〇円
差引減額　一、四五五、〇〇〇円



会社はこんなに

もうけようとしている

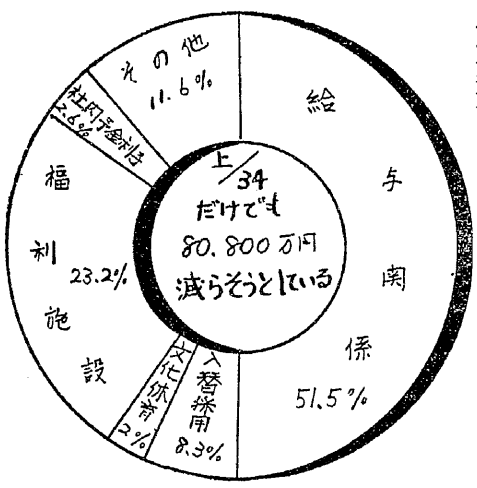
会社は、自分の腹をすこしも痛めずに一方的な、私たちにのみの犠牲で利益をあげようとして再建案をおしつけてきていますが、いつたいその額は、いくらになるのでしようか？

H表に見られるように、その金額は三十四年の半年分だけで八億円以上になります。

この金額は当然これから先もへらしていくものと考えられますのでものすごい金額になります。

そればかりではなく、そのほかに次のようなものについても、節約したいということですから「ぬれ手にアワ」のもうけになります。

イ、営繕関係の起業工事費（社宅の新築や各個水道など）についても将来、約束された金額は、七億七千万円以上もありますが



これは全部延期になりますのでたいへんな金額となります。

ロ、水道・電気・燃料などで年に八億円が使われていますが、この金も節約したいといつています。

ハ、三十三年下期にくまれた特殊営繕工事費（雨もり修理や道路補修など）は三億一千万円以上もありますが、この金がそつくりそのままゼロになります。どうしても、やらねばならぬ工事があるとすれば、その分だけは一般営繕工事にくいこむことになるわけです。

ニ、その他、職制支配を強めることによつて労働強化や賃金切下げなどからでてくるもうけを計算にいれると、それこそ〃笹人に追い銭〃で、笑いがとまらぬくらいの莫大な金額になるのです。

（H）　単位百万円

給与関係	419
入替採用	67
文化体育娯楽	16
福利施設	187
社内預金利子	22
その他	100
合計	808

われわれは現状でもやりきれないのだ

会社の再建案はまつたく独善そのものであることに、だれも異存があるはずはないと思います。一方われわれの現状は次のように陽があたつていませんので、「赤字」だからといつて引き退るわけにはいかないのです。

1、賃金は最低クラス

われわれは、世界中どこでも（資本主義国でも社会主義国でも）炭鉱労働者の賃金が最高であることを知つているが、日本では右のグラフのとおり最低クラスです。

2、生活の実態

炭鉱労働者の賃金はきわめて少く生活実態は最低といつてよいほどみじめです。もちろん、坑内直接夫などの重筋肉労働者の賃金は、坑外成年男子よりはいいのですがわれわれの生活を一般的にいえば今日の生活は敗戦直後にくらべると、服装、家庭用品、交通機関の利用など表面的には戦前と変りたいくらいに復活したように見えるが生活の土台は決して安定はしていません。

㋑ 昔は娘三人おれば身代が倒れるといつていたが、今日では子供三人学校にやれば借金苦に追われるといわれています。（生徒一人当年間負担―小学校一七、七三六円。中学校二〇、五六〇円。高校五七、一五四円―国民生活白書より）

㋺ 子供の教育を満たしてやることができないだけでなく、早く就職していくらかでもくらしのたしに役立たせるための就職さえできず、家庭にしばりつけておかねばならない状況です。

㋩ 家庭に病人ができればすぐに「借金」だし、冠婚葬祭も同様「おめでたい」ことさえ懐具合で淋しくなるし、「なんとか金さえあればもう少し家の中が面白くなるだろう」と考えているありさまです。

㋥ 昨年の賃金討論集会でも一、弟は東芝にでているが、私はそれより低い賃金でどうにもならん。

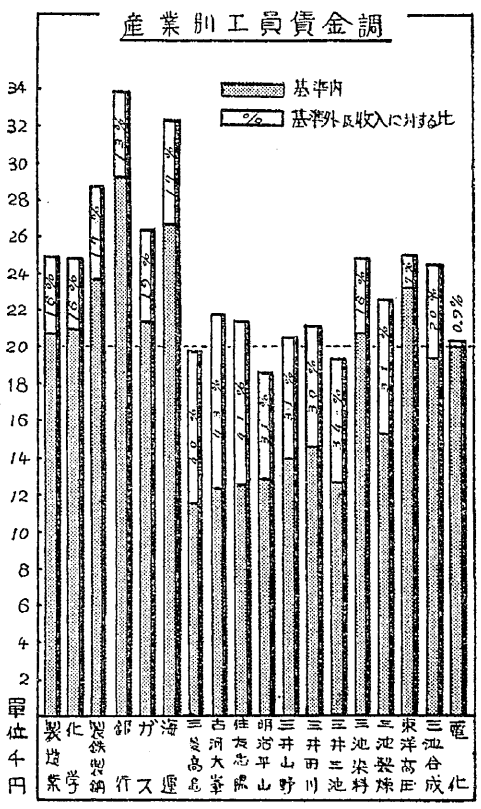
一、子供と五人暮しの選炭婦ですが、残業を縄一杯してやつと一万円である。まつたく「ニコヨン」同様の生活である。

一、坑内で働らいているが、まだ自転車も買えずにいる。（坑内間接夫）

一、坑外勤務者は食うだけで縄一杯で、文化生活など夢のようである。

一、永年坑内で働いてきたので目に見えて体が弱つた、もつと人間らしい生活をしたい。

一、せめて他産業並までなんとか賃上げすべきだ。



世界は転換期にきている

春闘の背景をみつめよう

ことしの「春闘」の背景を大づかみにまとめると

岸内閣への不信

岸内閣への不信は「警職法改悪」にたいして、全国的な規模で闘つた反対行動がよく物語つており、「警職法改悪案」を審議未了に追込んだ闘いを通じて、反動政策にたいする反撃の力が高まつています。

最近では、日米安保条約改定についての岸政府のやり口も、国民多数の反対を買つています。

滅びゆくものの尻についていく日本

㋑ 世界人口の三分の二はすでに新しい社会体制下にあります。いま、社会主義陣営の国民が十億独立をかちとつた旧植民地が六億中立ならびに独立をかちとろうとしている民族が七億、残る帝国主義の国家は四億で、世界の流れは平和と独立、社会主義の方向にむかつています。

㋺ ソ連、中国は驚異的な発展をとげています。

ソ連では生産の大幅（工業八〇％農業七〇％）な増大。賃金の四〇％以上の増額。労働時間の短縮。数年後には課税を廃止する。一、五〇〇万戸の住宅建設など雄大な「七カ年計画」がたてられ実行に入つています。

中国では「人民公社」を中心に工業、農業はもとよりすべての面で生産と生活が飛躍的な発展をとげつつあり、それは社会主義の歴史に新らしい一ページをかき加えたとたたえられています。

㋩ 大勢に逆行している日本。

社会主義の偉大な発展が人類の未来をあかるく照らしているのに、日本はアメリカにくつついて、世界の大勢に逆行し滅びゆくものの尻についているのです。これを打破りうるのは全勤労大衆の団結と闘争力あるのみです。

資本主義は悪アガキをしている

資本主義は社会主義諸国にくらべて、生産面でも軍事面でも力が弱いことがあきらかになりました。もうアメリカ帝国主義が世界を征覇することはできなくなり、全世界の、平和を求め貧乏に反対する民衆にみかぎられたアメリカは、ますます狂暴化し「張子の虎」といわれながらも、アジアに軍事同盟をつくつて侵略体制をかためようとしています。

それがいま、中心的には「日米安全保障条約改定」としてあらわれています。

日本をアメリカの軍事基地にする岸政府

（池田・ロバートソン覚書）

岸政府は、まつたく暴力的なやり方で勤務評定を強行しています。「勤評」は、まつたくおそろしいものです。岸政府はずいぶん昔（昭和二十八年）から、教員にたいして「勤務評定」をおこない、思想統制をはかり、戦争準備体制をつくることをアメリカと「池田・ロバートソン覚書」で約束していたのです。

これが反動岸政府の正体を露骨にあらわしている「池田・ロバートソン覚書」です。

池田・ロバートソン覚書

（昭和二十八年十月二十五日）

一、日本が現在及び将来に担当すべき任務にかんがみ、日本政府は、青少年をして軍国主義的自衛の精神を養成する。その実施にあたつては、現行憲法のもとでは、実行困難につき、小選挙区等の方法を講ずることによつて、できるだけ早く憲法を改めるべきである。

それに至るまでの緊急策として逐次、教育の制度と内容を変革し、目的に合致させる。

二、それと併行して、教師の思想及び教育行動を統制し得る法律（勤務評定）を制定実施の必要がある。それに対し、憲法変革反対の中心的役割を演じている教師及び国民が反対する場合は一九〇〇年法律（治安警察法）及び一九二二年法律（治安維持法）形式によつて取締る。

三、他方、政府の方針及び国家目的に協力し得るよう報道機関を管理することがのぞましい。同時に、協力的学者及び団体の養成に努める。

一事が万事です

アメリカにへつらいながら、日本の政治を積極的に軍国主義復活、再軍備の方向に向けてきた反動政治は、ますますその露骨さをましています。日米安全保障条約改定を焦点に、中国敵視政策。勤評の強行実施。ごまかしの最低賃金法制定。莫大な軍事費をおりこんだ資本家本位の国家予算編成。ＩＬＯ条約批准の回避など、岸政府の政策のすべてが労働者の利益に反するものばかりです。

好況・不況について

神武景気が一年余でナベ底景気とかわり、クビ切りと勝手な採用が交互に強行されてきたことは、忘れ得ない事実としてわれわれの肌身に痛感されていることです。これはもちろん、生産と消費および投資と労働力配置などに関する「経済計画」が岸政府には全然影も形もないからです。岸政府の経済五カ年計画は、毎年々々改訂の余儀なき運命を背負つており、もはや全国民なかんづく全労働者階級が「経済計画」の確立を大衆的要求としなければなりません。

数年前の「労働プラン」についての要求を、正しくいまこそ再提示し、大衆的な討議をおこすべきではないでしようか。

親子、夫婦、兄弟共稼ぎによる購入。

などといわれています。

軽オートバイなどは、三池の特色として社宅から坑口までが遠いため、多少普及している程度です

3、けい肺について

このように低い賃金で働いている私たちには、「けい肺」という特有のおそろしい病気があります。けい肺は、同じ地下産業である金属鉱山や、陶器、鋳物など石の粉末や砂を使用する作業場で働く労働者にもある病気ですが、この「けい肺」は

(1) いまの医学では治療の方法がない。

(2) 病状が次第に進行して死に至る。

という全く恐しい病気なのです。

このおそろしい病気にかかつている者が、三池炭鉱では、鉱員八三二名（昭和三十三年十月三十一日現在）の多数にのぼつています。

医学上治療の方法がないにしても病気にかかる率を少くするための保安上の設備と、健全な身体をつくるための生活費を、われわれが要求することは当然のことです。